

南小だより

R1. 9. 24



南風

< 令和元年度 第12号 >

発行：玉村町立南小学校

群馬県佐波郡玉村町角淵5011

電話：0270-65-9000

http://www.town.tamamura.ed.jp/minami-e/

「協力・全力・限界突破」(令和元年度運動会スローガン)

9月初めから子どもたちは、朝行事の時間や体育の時間を使って、28日(土)の運動会に向けて練習に一生懸命取り組んでいます。入場行進や表現(演技)も、練習を重ねるごとに徐々に上達してきました。運動会当日に、保護者の皆様や地域の皆様をはじめ、多くの方々に練習の成果を見ていただけることを、子どもたちも楽しみにしておりますのでぜひご来場の上、温かい声援を送っていただければ幸いです。



お願い

そこで、例年どおりのお願いで恐縮ですが、以下の点につきまして、皆様のご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

○運動会における保護者席の応援場所の確保について

保護者の皆様にはプログラムの送付とともにお願いしているところですが、応援場所の確保につきましては、当日の朝7時以降とさせていただきますので、**7時以前や前日の場所取りはぜひご遠慮ください。**昨年同様、当日朝7時前に設置されたシート等につきましては、一旦、校庭隅に片付けさせていただきます。また、前日が雨天等で準備ができなかったときは、準備終了後となる場合がありますので、ご承知おきください。

○運動会当日の学校周辺道路や近隣店舗駐車場等への駐車について

学校周辺道路や近隣店舗駐車場等への駐車は絶対しないようにお願いいたします。カインズホーム玉村店様のご厚意によりお借りした**臨時駐車場の駐車券(配布済み)**をお持ちの方は、**忘れずにご持参(提示)**いただき、係員の指示に従って駐車してください。

子どもたちとともに、ルールとマナーを守った素晴らしい運動会にしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力を重ねてお願いいたします。

陸上記録会に向けての練習が始まりました!

10月16日(水)〔予備日10月21日(月)〕に行われる郡陸上記録会に向けて、9月より週3日、高学年の児童を対象に、放課後の時間を使って練習を行っています。種目は、50mハードル、100m、800m(女子)、1000m(男子)、走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ及びリレーになります。汗を流しながら、好記録を目指して、一生懸命練習に励んでいます。当日は、5年生と6年生の児童の中から約50人が選手として出場する予定です。また、約10名の教職員が記録会の運営に携わります。そのため、午後の授業がたいへん手薄になります。そこで、この日は児童は給食を食べて午後放課とさせていただきます。ご家庭のご理解とご協力をお願いいたします。なお、放課後の過ごし方等につきましては、学校でも指導いたしますが、ご家庭でもご指導くださいますようよろしくお願いいたします。



ソフトボール投げ



走り幅跳び



ハードル

子どもが進んで勉強をするようになる2つの方法

子どもが勉強をしないのは、親が「勉強しなさい！」と言ってしまうことが原因の一つ、というのは書籍『ぐんぐん伸びる子は何が違うのか？』の著者である石田勝紀さん。学習塾を運営し長年多くの子供たちを見てきた石田氏が提案する、子どもが自ら勉強に取り組む方法とは一体どんなものなのでしょうか。

勉強しない子に頭を抱える親はいつの時代も多いものですが、勉強をするように促すには、どのような方法が効果的なのでしょうか。書籍『ぐんぐん伸びる子は何が違うのか？』の中に、親が「勉強しなさい」と言うことで思わぬ弊害があるとあります。

『「勉強しなさい！」と言われて「はい、勉強します！」と言う子どもはいません。それよりも、むしろ「勉強とは嫌なことである」という意識をインプットしてしまう可能性がある」とあります。命令的な指示は効果が出ないばかりか、逆効果になる可能性も秘めているのです。』

逆効果になるとは、胸に突き刺さる言葉ですね……今までそのような声かけをしてきた場合、勉強しない子どもに「勉強しなさい」と言っただけではいけないとなると親にもストレスがたまりそう。この言葉に代わる方法は2つあるそうです。

1. 「勉強しなさい」から「やるべきことをやりなさい」に言い換える

まず1つ目の方法は、今まで「勉強しなさい」と言っていたところを「やるべきことをやりなさい」と言い換えることだそうです。

『親は子どもにとって教師ではないので、子どもは無意識のうちに親から勉強のことを言われることを嫌っています。しかし、人としてあるべき行い（道徳や倫理観など）は親から言われても、うるさいと思いつつも無意識に受け入れてしまうものなのです。ですから、「やるべきことをやる」という言葉には、道徳的観念があるので、子どもは反発できません。』

確かに子どもの頃を振り返ってみても、親から「勉強しなさい」と言われると無性に腹が立ったこともありました。「やるべきことをやりなさい」ということで、子どもも自分にとって今やるべきことは何なのかを考えるきっかけになりますね。

2. 「子ども手帳」を使う

2つ目の方法は、子ども手帳を使うことだそうです。手帳と言っても特別なものを用意する必要はなく、市販の手帳やノートにやるべきことを書き込み、やり終えたら赤ペンで消すだけという、いたって簡単な方法です。

学校の宿題や塾の宿題など、日々やるべきことはだいたい決まっているにもかかわらず、自らこなすことができない子どもが多いのは、「勉強」という“面倒で魅力的でない作業”に子どもの心が向かわないためだと著者の石田氏は言います。

『心を勉強に向かわせるために、「子ども手帳」が登場します。子どもに手帳を持たせることは早いと思われるかもしれませんが、実際に「子どもたちに手帳を持たせて、そこにやるべきことを書かせ、終わったら消す」という簡単な作業をさせるだけで、従来の勉強しない状態から“やる状態”へと、180度転換するようになるから不思議です。』

さらに、子どもたちのモチベーションを引き出すために、1つの行動が終わったらそれをポイントに換算するというポイント化も有効のようです。何ポイントかたまったらご褒美につなげるなど、子どものモチベーションを高めるやり方を導入してもいいですね。

この手帳の目的は、勉強を習慣化させて当たり前にするということだとあります。日々の予定をこなせばポイントにつながるのであれば、モチベーションは高まるということ。こうして習慣化された勉強は結果を生み出すようです。ぜひ、参考にしてみてください。

